

水試の

何でも魚ツチング

No.61

ヒレのお話。

ヒレと聞いて何を連想しますか？私はすぐに魚を連想します。皆さんもそうなんじゃないかなと思います。お酒が好きな人はフグのヒレ酒やエイヒレを連想する人もいるのではないのでしょうか？

ヒレは魚にとって欠かせない器官です。その働きは、推進力を生むため、方向転換するため、泳いでいるときに体を安定させるためなど…。クロダイの泳ぎ方を見ると、ブレイキとしての役目もあるのかもしれない。このようにヒレは泳ぐために重要な役割を担っています。

泳ぐため以外に使われるヒレもあります。アンコウのアンテナは皆さんご存知かと思えます。アンコウの餌である魚をおびき寄せるためのルーアのような役割があるといわれていますが、背ビレの一部が変形したものであると知っている人はあまりいないと思います。

ホウボウやカナガシラについている足のようなものは胸ビレの一部が変形したもので、餌をさがすために使っているようです。サメの腹ビレやエイのしっぽの付根あたりに2本の突起がありますが、これは生殖器官としての機能があるヒレで、オスだけにあります。わかりやすく言えば、ちん○んのようなものです。サメやエイには二つもあるんです！！

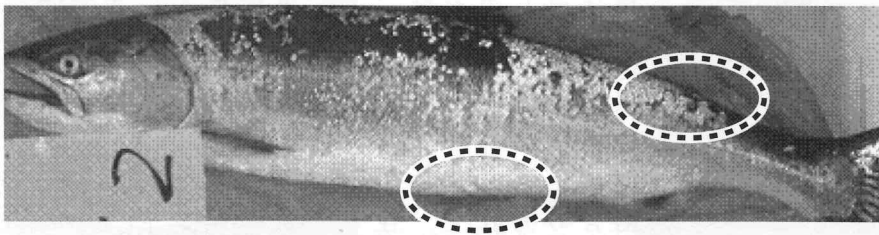
サケマスの仲間には脂ビレという独特のヒレがついています。以前ある人から、サケマスの脂ビレは、人間で言うと「のどちんこ」みたいなもので特別な機能はないと

聞かされたことがありました。しかし、最近脂ビレは水の流れを感じるセンサーのような機能があるのではないかと言われています。

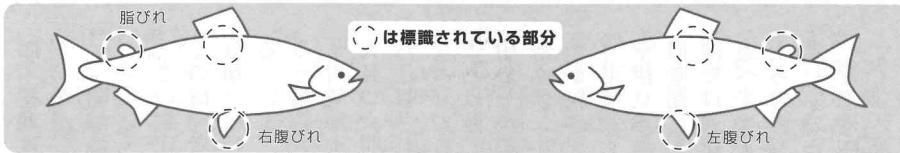
山形県や他道県の水産研究機関では、サクラマスの回遊生態や放流効果を調べるために、脂ビレなどのヒレを切つて目印(標識)をつけた魚を放流しています。これから5月にかけて、刺網や定置網でサクラマスが獲れます。その中に脂ビレの無いものが混じっていることがあります。市場調査で標識のある魚が見つからば貴重なデータになるのでうれしいのですが、センサーのような機能があるのではないかとされている所を切つて大丈夫なのか？何か悪い影響はないのか？帰ってくるのかな？と心配に思います。それでも、私の心配などよそに、標識のあるサクラマスは今年も帰ってきます。

今後もサクラマスがたくさん獲れるように市場調査などいろいろな研究をしていきますので、ご理解ご協力をお願いします。

水産試験場浅海増殖部 研究員 粕谷 和寿



サクラマスの標識親魚を探しています！



平成20年に下表のとおりサクラマスの幼魚を標識放流しました。

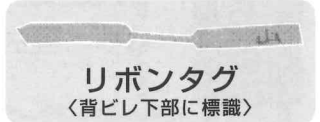
平成21年の春に山形県沿岸に帰ってくる予定です。

サクラマスの標識親魚を見つけたら水産試験場まで連絡をお願いします。

放流日	放流河川	放流尾数	標 識	
			ヒレを切った部分	タグ標識の種類
2月25日～26日	最上川水系小国川	1万尾	脂ビレ+右腹ビレ	黄色リボンのタグ
2月27日～28日	最上川水系富並川	1万尾	脂ビレ+右腹ビレ	ピンクリボンのタグ
3月25日～27日	最上川水系富並川	3万7千尾	脂ビレ+右腹ビレ	なし
3月11日	赤川	5万5千尾	脂ビレ+左腹ビレ	なし
3月17日	庄内小国川	2万4千尾	左腹ビレ	なし
3月20日	五十川	4万尾	右腹ビレ	なし

水産試験場 浅海増殖部
サクラマス担当 粕谷 和寿

電話番号 代表 0235-33-3150
F A X 0235-33-0979



● ベテラン漁師のおじいちゃん。ぼく「おくりびと」になりたくないよ。お願いね！